

学ぶ環境のつくり方

深谷圭助 池田書店 2020.4.

著者は、子供の本当の意味での主体性を伸ばすための提案をいくつかしています。そのためには我々大人の役割がとても大きいことを感じます。

- ◆子供にとっての「本当の主体性」とは、今よりも難しいものにチャレンジし、**失敗しても何度も**繰り返し、昨日よりも成長した自分になること。

- ◆主体性とは、**自分プロデュース**できること。自分プロデュースできる子とは、自分らしい人生をどう生きていくかを自ら考え、自ら切り拓いていくために努力をしていける子供のこと。世の中は自分一人だけでできることなど存在しない。かけがえのない**人間関係を構築**する力も「自分プロデュース力」の中に含まれる

- ◆「かまいすぎ」や「ほったらかし」では子供の自主性は育たない。
「かまいすぎ」とは、「子供のものさし」よりも、「親のものさし」を優先している状態。
「ほったらかし」とは、「親の都合」を優先してしまっている状態。

- ◆自己プロデュースできる子を育てるスキヤフォールディングの3つの柱
 - 1 **人とのつながり**
 - ・メンター（子供の成長に良い影響を与えてくれる存在）との出会い
 - 2 **学びに向かう力**
 - ・動機づけ、学びのスタンス、学習方略を教える
 - 3 **しなやかで強い心**